



1がっ しいの実・たんぽぽ・みずぐみ クラスだよ

2026.1.31 円町まぶね隣保園



日中も寒い日が続く、寒さも本格的になってきました。
 今月は、日中、暖かい日には、散歩に出かけて思いきり身体を動かしてあそびました。
 室内では、色々な画材を使って描くことや、指先を使って作るなど、制作活動を楽しんでいます。



年末～年始の長い休みを過ごした子どもたちですが、保育園での生活もすっかり元通りになり、ますます活発にみそんでいます。

欲しいおもちゃがあると、「あっ！」と指差しをしたり、友だちの持っているおもちゃを引張り、張ってみたり、「ちよーてい」と手を合わせてみたり、「かいて」と言葉で伝えたり、それぞれの月齢に合わせて自分の思いをしっかりと出しています。

絵本コーナー

絵本が大好きな子どもたちです。表紙が見えやすいように、完成した手作り絵本棚に並べておくと自分で好きな絵本を出してきて「よんで～」と保育者の所に持ってきます。又、棚の横にイスを並べておくと、イスに座って自分でページを開いて見る姿もあります。好きな絵本を何度も読んでもらううちにフレーズを覚えて「おんこころん」と置の上に寝ころびたり、「はーん」とお手をパンザイして伸びてみたり、食べ物が出てくると絵本に手を伸ばしてパクパク食べる真似をしたり、全身で絵本の世界を楽しんでいます。これからの春の中、お昼寝前に色々な絵本に読んでいきたいと思っています。

ままごとコーナー

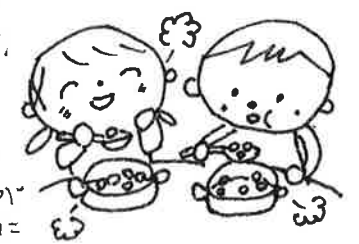
棚の上には、コンロや水道、中には、食べ物、お皿やコップ、カバンやハンカチをカゴに入れて並べています。シルクまみで作ったテーブルを出すと、さっそくお皿を持ってきて食べ物を並べます。友だち同士で、作ったごちそうのやりとりをし、保育者にも「食べで」とばかりに10元まで持ってきてくれます。パンダや頭に付けてもらったり、カバンを腕にかけてごちそうを入れたりままごとあそびを楽しんでいます。これからの友だちとのやりとりが増え、ごちそうあそびが広がっていくよう見守り一緒にみそんでいます。

つくる

今まで、ペンや絵の具を使って描くことを楽しみ、指先を使って、シール貼りやポットン落としをしてきました。今まで経験してきたことを制作の中に取り入れています。何かが出来るとか楽しみにしてくれています。

給食のお手伝い

給食で使う食材に触れて、食べる大きさに慣れるように、野菜をちぎったり、折ったりはお手伝いを始めました。一回目は、もやしをボキッと半分に分けました。保育者が折るのを見て、同じようにやってみる子どもたちです。「ボキッ」と音かいて、折れるとおもしろくて「もういっかい」と何度も折ります。生の野菜に触れてその感触を楽しみ、給食の時には、自分たちの折ったもやしがお皿の中に入っているのを見て嬉しそうにしていました。



たんぽぽぐみ

お正月もあけ、雪が降り、とても寒い日が続いています。今年も1年子どもたちの成長を共に見守ってみたいと思います。寒さに負けず、外でもいっぱいあそびたいですが、短時間だけにするなど、子どもの様子を見て過ごしていきたいと思っています。

今日から制作展に向けた作品作りをしています。子どもたちが好きな「おべんとうバス」の絵本より、食材を様々な素材や技法を使ってじっくり取り組んでいます。ポンドをつける際に指先で少しだけつける子ども、逆にたっぷり手が真っ白になってつける子ども、一つひとつの作業でもそれぞれのやり方が違って面白いです。一人ひとりの個性を大切にしながら進めていきたいです。おべんとうバスの内容については、日頃のあそびの中でも「〇〇ちゃん(くん)」「はーい」という絵本の中に出てくるやりとりを同じようにする姿も見られ、それが本当に楽しくなってきたようです。友だちとのやりとりも増えてきて一緒にあそんでいます。

〈1, 2, 3... 10! おまけのおまけの...〉

あそびの中でこれがやりたい、貸してほしいというのが日々の中でたくさんあります。よく話せるようになったとはいえ、まだまだパツと何も言わずに取ってしまったり、1つのおもちゃを取り合うことがあります。保育者も「貸してほしいんやな」「貸してって言うのよか、一緒に」と言いますが、なかなかうまくいかないこともあります。そこで1から10を数えてのんたんの絵本に出てくる「おまけのおまけのきしゃぽーぽー、ぽーぽー」となったらかわりましよう、ぽーぽー！」と1フレーズを歌ってみると「どうぞー」と不思議と変わっています。歌うことで満足するのか、テンポがいいのか... 子どもたちにはいつも驚かされます。「代わってくれてありがとう」としっかりお礼を伝えると嬉しい子どもたちでした。

〈身の回りのことは自分で〉

あらゆる場面で大人に「手伝って」と助けを求めることがある子どもたちですが、自分で少しずつ出来るようになってほしいので、まずは「一回やってみようか」と見守ります。着脱などの際、最初はうまくいかず、泣いてしまったり、怒ってしまうこともあります。最初は大人の援助が必要になってきますが、手伝いすぎると子どもたちのやろうとする思いを止めてしまいます。何度もくり返しやってみることで少しずつ、1個出来るようになり、2個出来るようになり、最終的に一人でも出来るようになっていきます。一つずつ出来るようになるたびに自信もつき、嬉しい気持ちにも繋がります。小さい時には難しいこともありますが、今、自分で色々やってみようという時期、生活の中でもちよとやってみよう、見守っているからの時間を作ってもらい、出来たことと共に喜んでもらえるのが嬉しいです。



みずぐみ

おにぎり作り

- 3時のおやつで出てくる「おにぎり」を、12月から自分たちで握っている子どもたち。回数を重ねる毎に、ラッパに包むのが上手になってきました。そして、おやつだけではなく、おにぎり作りを、制作としても取り組み始めました。実際に自分たちで1粒を見て、粘土で1粒ずつ作っています。〇〇
- 親指と、人差し指を使い、小さくちぎったり丸めたり... この作業は、手先の器用さはもちろんのことですが、集中力も必要になってきます。今のみずぐみの子どもたちは、身体をおもいきり動かすことが大好きなのですが、おにぎり作りでは、友だちと担任と集中して取り組んでいます。
- 慣れてくるとおしゃべりを楽しみながら丸め、和菓子職人のようにちぎって丸めてリズム良く一連の流れで繰り返し、ご飯粒を量産していく姿もありました。1粒ずつ作っているの、時間も見つめてコツコツ少しずつ取り組んでいます。

どんなおにぎりが出来上がるのか、どうぞお楽しみに。



スプーン



給食では、スプーンの鉛筆持ちを意識できるように伝えています。子どもたちに分かりやすいように「バンバンのお手ねだね」と見せながら伝えることで、少しずつですが自分たちでも「バンバンのおてやな」と確認したり、「できたよ!」「こう?」と意識したりするようになってきています。粘土をちぎったり、丸めたりしているの、あそびの中で指先の発達を促し、スプーンの鉛筆持ちへとつなげていければと思います。